



No.477

「短歌を学んで短冊を書こう」

小学生短歌受賞作品発表！

毎年恒例の小学生イベント『短歌で短冊を書こう』です。今年も各教室の小学生の皆さんから力作が集まりました。作品総数百十二首。短歌を作成した小学生の皆さん、本当にありがとうございました。季節の風景、夏休みのこと、自分の思いや願い、将来の夢や目標……。そして「共に暮らすペットについて」についての作品も目につきました。いずれの作品も情景や思いが伝わる秀作揃い。また今年も作品レベルが上がった感があります。来年も皆さんのすてきな作品をお待ちしています！

「短歌で短冊を書こう」実行委員長 青木

特賞（一名）

☆草むらの 中で聞こえる 話し声
虫の会議は じゃまするなかれ

【受賞者 竹谷 晴くんのコメント】

いろいろな工夫をしてがんばって書いたのうれしいです。

【流山おおたかの森教室長 佐々木より】

虫の鳴き声を話し声と捉える着眼点がすばらしい！ おめでとう！

金賞（二名）



☆飼猫の 言葉が分かった いいのにな
そしたらもつと 仲良くなれる

【受賞者 青木 結咲さんのコメント】

大好きなねこちゃんに金賞がとれてうれしいです。

【柏教室長 五日市より】

猫と遊んでいる場面が浮かんでくる素敵な歌ですね。金賞おめでとう！

☆ひまわりは 太陽のよう 心晴れ
風が吹いたら きれいに遊ぶ

【受賞者 管 和奏さんのコメント】

金賞を受賞できて宇宙にとどくほどまい上がりそうになりました。

【流山おおたかの森教室長 佐々木より】

ひまわりがおどっている様子が目に浮かびます！ おめでとう！

銀賞（二名）



☆六月だ かさにはじける 雨の音
ぱちぱちはじめて かさもうれしそう

【受賞者 駒場 優月さんのコメント】

かさを人に見立てた所を工夫しました。受賞できてうれしいです。

【流山おおたかの森教室長 佐々木より】

前向きな、かさの様子で、雨が待ち遠しくなりますね！ おめでとう！

☆もういいや 楽しめればいいと あきらめた
暴飲暴食 正月太り

【受賞者 稲垣 恵咲さんのコメント】

賞をとれると思っていなかったの、とてもうれしいです。

【柏教室長 五日市より】

稲垣さんのクールでチャームिंगな一面がよく出ている名作。銀賞おめでとう！

銅賞（八名）

☆夏休み ホラーの映画 見に行くぞ
少し怖くて 友達誘う

【受賞者 黒田 唯斗くんのコメント】
率直な思いを書いたものが賞を取るとは思わなくて、うれしいです。

【我孫子教室長 高寺より】
怖いけど挑戦したい、素直な気持ちを歌っているのが良いですね。

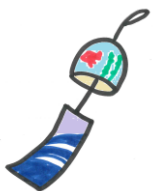
☆ひびくおと 涼しさ増して いい気分
夏の風鈴 忘れられない

【受賞者 宮本 咲希さんのコメント】

読んでもらう人に自分の気持ちが伝わるように書きました。

【江戸川台教室長 松永より】

風鈴の音に涼しさを感じます。それが、思い出に生きているのですね。



☆高い壁 超える勇気を 奮い立たせ
新たな道を 開く力よ

【受賞者 植田 彩加さんのコメント】

短歌でかがけた目標を達成できるようにこれからもがんばります。

【柏教室長 五日市より】

大人の我々も勇気をもらえるような歌。胸に刻みます。銅賞おめでとう！

☆夜の海 田舎はきれい 虫の音
ああい声だ においしいな

【受賞者 紙本 智史くんのコメント】

楽しいことを考えながら短歌を作りました。銅賞嬉しかったです。

【パーソナル新柏教室長 松尾より】

保護者の方のご実家の自然を連想させる綺麗な歌ですね。受賞おめでとう。

☆きもだめし チームでかたよせ
あるいてる 悲鳴がきこえる 次は自分だ

【受賞者 畑口 広樹くんのコメント】

昨年のリベンジで、賞を取れてうれしいです。

【流山おおたかの森教室長 佐々木より】

次は自分だと覚悟も見え、臨場感のある歌ですね。おめでとう！

☆ぼくたちで 未来をつなぐ 行き先へ
この手で掴む 世界平和を

【受賞者 若林 快維くんのコメント】

二年連続選んでいただきありがとうございます。うれしいです。

【パーソナル我孫子教室長 上田より】

ワールドワイド！ 世界を、未来をつなぐために英語と一緒に頑張ろう！

☆ミニトマト 真っ赤にそまれ 暑い夏
暑さに負けるな 元気に育て

【受賞者 酒巻 和夏さんのコメント】

ミニトマトが元気においしくなるように願いを込めて歌いました。

【パーソナルおおたかの森教室長 矢上より】

和夏さんのミニトマトに対する思いが非常に伝わる短歌でした。

☆夏休み アイスを食べて 海に浮く
ごはんも食べて とても満足

【受賞者 西田 こころさんのコメント】

銅賞になれるとは思っていなかったの、うれしいです。

【パーソナル柏教室長 山崎より】

おめでとうございます。満足な表情が目に見えます。



やっぴなるっ。高校受験

毎年、公立私立ともに高校受験は変化しています。今回は入試情報部から最新の情報をお届けします。中学三年生の保護者説明会では、資料やスライドで説明していることもあります。中学二年生以下の生徒・保護者にも、早めの準備をしていただけるようまとめておきます。

まずは公立高校。すでに千葉県教育委員会から、発表された入試選抜の改善点二点についてです。

令和八年度入学者選抜（現中二）から、調査書の記載項目が精選されます。具体的には、①総合的な学習の時間の記録 ②出欠の記録 ③行動の記録（第三学年）④総合所見 この四項目が削除されます。特に注目が②出欠の記録です。令和七年度入試でも出欠の状況のみで不利益な取り扱いをしないこととしていましたが、次回の入試から調査書に記載されることがなくなります。今までは欠席日数を審議の対象にしている学校がありましたが、全くなくなるということです。他の削除項目は、「生徒の心理的負担」を軽減することを名目にしていますが、教員の負担を減らす「働き方改革」の表れではないかという気がします。

令和九年度入学選抜（現中二）から、学力検査「国語」における「放送による聞き取り検査」が廃止されます。その代わり、話し合いの場面等を設定した文章による出題で「話すこと・聞くこと」の領域に関する資質・能力を見ることができるようになります。

最後に、保護者面談でも何度も聞かれ、最も関心を集めている**「デジタル併願制」**についてです。こちらは、何も決定していません。この制度がクローズアップされたのは、令和七年四月『デジタル行財政改革会議』での慶應義塾大学教授の中室牧子氏の提起からです。中室氏が公立高校の単願

制の問題を論じ、生徒が本来に志望する高校へ併願をできるように、DA（受入保留アルゴリズム）の導入を提案し、議長の石破首相は「生徒の希望する進学につながる」とのメリットや現場の課題を丁寧に考慮し、希望する自治体での事例創出の具体化を図ってください。」と後押しする話をしています。その後の報道で『デジタル併願制』という名がつき、広まりました。実施時期は未定となっていますが、全国一斉ではなく、希望する自治体から実施していく流れで、すでに積極的に発言している知事もいます。では、千葉県知事の熊谷氏はどうかというと、積極的にも消極的にも発言していません。ただ、『デジタル行財政改革会議』に関係する『デジタル行政改革戦略チーム』には、都道府県知事で唯一、熊谷知事が参加しています。今後の動向には注目が必要かもしれません。

続いて、私立高校。最も大きな変化は、**「高校授業料の無償化」**の話題だと思います。令和八年度から、所得制限の撤廃や私立高校の加算額の引き上げを文部科学省では検討しています。令和七年度は年収約九百十万円未満世帯の高校生には高等学校等就学支援金、それ以上の世帯の高校生には国公立立共通の基準額である年額十一万八千八百円を上限とした高校生等臨時支援金がありました。が、十一万八千八百円は所得制限がないものと同様に扱われていました。正式な発表が行われていないので明言できませんが、おそらく令和八年度から私立高校も「授業料の無償化」となると思われます。ただ、私立高校は授業料の他にも「設備費」や「修学旅行積立金」など公立高校よりも金額がかかることに留意してください。

東葛エリアで令和八年度一番の変化は、何と言っても**流通経済大学付属柏高校の併願推薦の廃止**だと思われます。併設中学から一期生が高校に進学するので、外部募集定員を絞るためです。単願

推薦は継続することですが、推薦基準はまだ発表されていません。その影響もあつてか、他の私立高校も基準を公表していない学校が例年以上に多い気がします。

また、公立高校では「出欠の記録」を調査書から廃止しますが、**私立高校では反対に推薦基準に「欠席日数〇〇日以内」や「欠席・遅刻・早退の合計〇〇日以内」と明記する学校が増えています。**その日数も三年間の合計の学校もあれば、学年毎に設けている高校もあります。中学一年生、二年生は、各学年の欠席日数にも気を配る必要があります。

高校入試は毎年毎年、変化しています。公立高校の「学校設定検査」の内容や、私立高校の「推薦基準」の数値なども変わっています。ただ、どんな状況でも志望校に合格するためには、勉強して学力をつけなければなりません。中学三年生はここからの半年、中学一、二年生は目の前の定期テストや課題に全力で臨んでほしいと思います。

（佐々木）

卒業生からの贈り物

「高三の秋まで吹奏楽部で多忙を極めていたあの彼女が国立大学に!!」「熱血部活少年、高二で部長を務めたあの彼も国立大学に!!」

ブログ掲載のフリーズです。身内を褒めるようではばかれますが、毎年、創学舎大学受験部の合格状況を確認するたび、その凄さと高三生の奮闘を称えずにはいられません。

そうした実績を生み出す秘訣は、四十年にわたる実践を通じて、**オリジナルテキスト・副教材等の活用が構築されていること**にあると私は捉えています。「何をどのように使おうと、どのような効果があるのか」が、数々の生徒の声として残され

ています。合格発表後の体験記は『大学受験部版アガトス通信』にも掲載していますが、教材の活用法については、授業用テキストに「先輩達からの声」として載せています。少しだけご紹介。「〇〇は常に持ち歩かないとソワソワしてくるくらいまでやりました。」「〇〇は本当に力が付く。やめると分かる!」

どうでしょう、このリアリティ。本当は毎日取り組みたいけれどそうできない日々もあった。また「本当にこれでいいのか? もっと効率的なものがあるのでは?」という葛藤もあった。そのような体験を経ての「やめると分かる!」この一言に様々なものが凝縮されています。

次に、チラシ掲載の合格者を見ながら感慨深く思うこと。それは、**「首都圏の国立大学・難関私立大学」に合格している受験生の実に多くが「創学舎各小中学部の卒業生たち」ということ。**小中学部在籍時に身に着けた学習習慣、高校入試を通して培った眼前の課題に本気で取り組み姿勢、それがきつとプラスに働いているのでしょう。

そんな風に受験部と小中学部の連携効果について考えていた春先、一人の卒業生が教室を訪れます。T中学卒業のK君です。難関私大の法学部・商学部・国際教養学部にも全勝したこと、高校の職員室で胴上げされたことを報告してくれました。「予備校は利用していません。創学舎での取り組みが活きています。」と、嬉しいことを言ってくれました。K君のこの一言が無ければ、この記事も書かなかったでしょう。最後にこの少年は、「近所の中学生には創学舎を勧めています! 中学生なら創学舎一択だろって宣伝しますよ。」と笑いながら語ってくれました。感謝! （五日市）